



放射線診断科  
部長

山岡 利成

## 特色

### ● Diagnostic Imaging :

全身の臓器が対象となるため、病理診断科同様、非常に守備範囲が広いのが放射線診断科の特徴です。患者さんの主科や紹介元の先生が変わっても、当科に画像検査で受診される限り、画像を通じて継続的に患者さんの経過と健康を見守り続けている診療科です。2006年に部門画像サーバーを導入して以来、CT, MRについては、全ての画像が保管されています。

一般撮影や透視検査についても、過去10年以上にわたり経過を追跡出来る環境にあります。紹介受診された際に持ち込まれた画像も併せて保管しています。これらの画像を活用し、今現在、患者さんが困っておられる問題点を解決できるような読影を心がけています。

装置の高性能化で短時間で全身の検査が終了するため、安易に広範囲撮影を指示する若手医師も目立ちます。これに伴う医療被曝の増加も看過できない状況となっており、最近では医療被曝の正当化についての指導業務も行っています。放射線科診療では、悪性疾患などの放置不可能な病変が偶発的に見つかるケースにも時々遭遇します。このような silent killer disease の発見にも細心の注意を払う必要があり、読影に必要な時間は、撮像枚数の増加に比例して、延長傾向にあります。郵送での検査結果返却にご理解を賜り、読影時間の確保にご協力いただき有り難うございます。

当院の画像診断の最大の特徴は、撮影された画像をただ読影するのではなく、装置の特性を最大限に引き出せるよう、技術科のスタッフと随時検討しながら、撮影の工夫を行っている点です。画像が撮影される前から積極的に関わることで、より質の高い検査が提供できると考えています。

画像のオーダーに関するご相談、報告書に関する疑義照会もお気軽にご連絡ください。

### ● Interventional Radiology :

主治医となることはありませんが、主科の依頼で、院内のニーズに合った interventional radiology (IVR) を提供しています。患者層の高齢化により IVR のような比較的低侵襲な治療のニーズは益々高まると予想されます。また、各診療科の治療技術の進歩に伴い、IVR が併用されるケースも増えてきています。病床に対して十分な IVR 専門医が不足しているため、京都大学放射線診断科から IVR 専門医の派遣をうけ、(準)待機的症例では、専門医が対応する体制としています。

IVR は外科的介入に比べると低侵襲で、トラブルがなければ、誰でもできる簡単な手技に見えてしまうため、安易に考えられがちです。残念なことですが、十分な知識やトレーニング経験を持たないまま安易に手を出したがる医師を今でも見かけます。このような状況に対し、病院長の交代に伴って、IVR の担当領域の分担整理が行われました。当科では、頭部、四肢、心臓、肝疾患以外の領域以外を幅広く担当することとなりました。血管内治療以外にもドレナージや生検といった領域もカバーいたします。

当科では、IVR の専門知識に基づいた愛護的手技の徹底を最優先に、万が一、トラブルが生じた際でも各科のバックアップが得られる体制のもと、独走することのない環境での実施を心がけています。術中の被曝線量の管理にも細心の注意を払うことで、患者、術者はもちろんのこと、サポートしてくれるスタッフの職業被曝にも正面から向き合っています。病棟のベッドは各診療科にお借りしており、ご紹介いただく場合は、主科となっただけの診療科にご相談をお願いいたします。

### ● Nuclear Medicine :

核医学領域では、従来の診断業務に加え、放射線治療科と協力しながら内用療法にも力を入れています。最近では、短期入院の必要な薬剤が認可され、今後も同様の薬剤が少しずつ増えてくるようです。当院では内用療法の入院体制が整っておらず、適応のある方には近隣の然るべき施設をご紹介します。



## 診療内容

対象疾患	全身の腫瘍性疾患全般、変性疾患、血管障害など
放射線診断	全領域の CT、MR、RI の画像診断報告書の作成。
血管内治療	動脈塞栓術（略血等止血術）、体幹部動注化学療法、動注用リザーバー留置、門脈の IVR（狭窄に対するステント留置、肝切除前の門脈塞栓）、リンパ管造影・塞栓、各種ドレナージ、生検など
放射線内用療法	去勢抵抗性前立腺癌の骨転移治療

## 実績

		件数			件数
透視・一般撮影検査		68,689	C T 検査		27,012
MR 検査		8,700	R I 検査		877

## スタッフ

医師名	役職	専門分野	専門医認定 / 資格など
山岡 利成	部長	画像診断全般 (特に MR)	放射線診断専門医、指導医（日本医学放射線学会） PET 核医学認定医（日本核医学会） 核医学専門医、指導医（日本核医学会） Sigma Xi (Scientific Research Honor Society) 正会員 <a href="https://orcid.org/0000-0002-5910-0773">https://orcid.org/0000-0002-5910-0773</a>
栗原 研輔	副部長	画像診断全般 (特に腫瘍 PET)	放射線診断専門医、指導医（日本医学放射線学会） PET 核医学認定医（日本核医学会） 核医学専門医、指導医（日本核医学会）
尾上 宏治	副部長	画像診断全般	放射線科診断専門医・指導医（日本医学放射線学会）
渡邊 幸香	医長	画像診断全般	放射線科診断専門医・指導医（日本医学放射線学会）

## 地域医療機関の先生方へ

府下の地域がん診療連携拠点病院と比較すると、病床数に対する放射線診断専門医、IVR 専門医の数が極端に少ない環境での診療を余儀なくされております。

人員不足に伴う地域医療への影響が生じないよう努めてはおりますが、十分行き届かずにご迷惑をお掛けしているものと思っております。この場を借りて、お詫び申し上げます。